

昼の祈り

午 祷



日本聖公会祈祷書（1959年版）より

一同立ち、準備の黙祷の後に次の唱和を用いる。

司式者 神よ、すみやかに我らを救いたまえ

会衆 主よ、とく、きたりて我らを助けたまえ

一 同 父と子と聖霊に栄光あれ、始めにあり、今あり、世よ限りなくあるなり

アーメン

ここで次の聖歌を歌いまたは唱える。

一	まことの	みかみは	みひかりを	はなち
	うつろう	このよを	しろしめし	たもう
二	つみの	ほのお	けし	あしき
	おもい	さり		
	みとたまを	まもり	やすきを	えさせよ
三	みちちと	みたまと	とわに	ひとつなる
	みこイエスに	よりて	いのり	たてまつる
			アーメン	

ここで次の詩の全部または一部を歌いあるいは唱える。

詩百十九篇 81－96、97－112、113－128

- 八一 わが魂はなんじの救いを慕いて絶え入るばかりなり | われは御言葉によりてのぞみをいただく
八二 わが目は御誓いを待ち望みておとろう | われ言えり、「なんじいずれの時われを慰むるや」と
八三 我は煙の中の皮袋のごとくなりぬ | されどなお、なんじのおきてをわすれず
八四 なんじのしもべはいつまでしのぶべきや | なんじいずれの時われを責むる者をさばきたもうや
八五 高ぶるもの我をおとしいれんとて穴をほれり | 彼らはなんじの律法にしたがわざるなり
八六 なんじの戒めはみなまことなり | 彼らは偽りをもて我を責む、願わくは我を助けたまえ
八七 彼らは地にてほとんど我をほろぼさんとせり | されど我はなんじの戒めを捨てざりき
八八 願わくはなんじのいつくしみによりて我を生かしたまえ | さればわれ御口よりいずるあかしをまもらん
八九 主よ、御言葉はさだまれり | 天にてとこしえにさだまれり
九〇 なんじのまことはよろず世におよぶ | なんじ地を定めたまえば、地はかたく立てり
九一 これらのものは御定めに従い、常にありてきょうにいたる | よろずのものは、なんじのしもべなればなり
九二 なんじの律法わが喜びとならざりしならば | 我はわが悩みのうちに滅びたりしならん
九三 我つねになんじの戒めをわすれじ | なんじこれをもて我を生かしたまえばなり
九四 我はなんじのものなり、願わくは我を救いたまえ | 我なんじの戒めをもとめたればなり
九五 悪しき者は我を滅ぼさんとして待ち伏せたり | されど我はただなんじのあかしをおもう

九六 我もろもろの全きに、はてあるを見たり | されどなんじのいましめは、きわまりなし
父と子と聖霊に | 栄光あれ
始めにあり、今あり | 世々限りなくあるなり アーメン

- 九七 我なんじの律法をいつくしむこといかばかりぞや | 我ひねもすこれを、ふかくおもう
九八 なんじの戒めはつねに我とともにあり | 我をわがあだにまさりてさとからしむ
九九 我はなんじのあかしを深くおもう | ゆえに我すべての師にまさりて知恵おおく
一〇〇 我はなんじの戒めをまもりたり | ゆえに老いたる者にまさりて事をわきもうるなり
一〇一 われ御言葉を守らんためにわが足をとどめ | もろもろの悪しき道にゆかしめず
一〇二 我なんじの定めを離れざりき | なんじ我を教えたまいたればなり
一〇三 御言葉の味わいはわが口に甘きこといかばかりぞや | 蜜の甘きにまされり
一〇四 我なんじの戒めによりて知恵をえたり | このゆえに偽りのすべての道をにくむ
一〇五 なんじの御言葉はわが足のともしびなり | わが道のひかりなり
一〇六 われなんじの正しき定めをまもらん | 我これを誓いかつかたくせり
一〇七 我いたくるしめり | 主よ、願わくは御言葉に従いて我をいかしたまえ
一〇八 主よ、願わくは賛美の供えものをうけ | なんじの定めをおしえたまえ
一〇九 わが命はつねにあやうし | されど我なんじの律法をわすれず

- 一一〇 悪しき者わがためにわなをもうけたり | されど我なんじの戒めより迷いいです
一一一 なんじのあかしはとこしえにわが嗣業なり | これわが心のよろこびなり
一一二 我なんじのおきてに心をかたむけ | 終わりに至るまでたえずこれをまもらん
父と子と聖霊に | 栄光あれ
始めにあり、今あり | 世々限りなくあるなり アーメン
- 一一三 我ふたごころの者をにくむ | されどなんじの律法をいつくしむ
一一四 なんじはわが隠れが、わが盾なり | われ御言葉によりて望みをいただく
一一五 悪をなす者よ、我をはなれ去れ | 我わが神のいましめを守らん
一一六 御言葉に従い、我をささえてながらえしめたまえ | わが望みにつきて恥なからしめたまえ
一一七 我をささえたまえ、さらば我安らかなるべし | 我つねになんじのおきてに心をそそがん
一一八 すべておきてより迷いいずる者をなんじかろしめたもう | 彼らの欺きはむなしければなり
一九 なんじは地のすべての悪しき者を金かすのごとくみなしたもう | されば我なんじのあかしをあいす
一二〇 わが身はなんじを恐るるによりてふるう | 我はなんじのさばきをおそる
一二一 我は正と義とを行ないたり | 我を捨てて、しいたぐる者にゆだねたもうなかれ
一二二 なんじのしもべのなかだちとなりて我をまもり | 高ぶる者の我をしいたぐるを許したもうなかれ
一二三 わが目はなんじの救いを待ちのぞみておとろう | なんじの正しき誓いを慕うによりてなり

一二四 願わくはなんじのいつくしみに従いてなんじのしもべをあしらい | 我になんじのおきてをおしえたまえ
一二五 我はなんじのしもべなり | 我に知恵を与えてなんじのあかしを知らしめたまえ
一二六 今は主の働きたもうべきときなり | 彼らはなんじの律法をやぶれり
一二七 ゆえに我なんじのいましめをあいし | こがねよりも混じりなきこがねよりもまさりて、これをしよう
一二八 ゆえに我なんじのもろもろの戒めによりてあゆみ | すべての偽りの道をにくむ
父と子と聖霊に | 栄光あれ
始めにあり、今あり | 世々限りなくあるなり アーメン

司式者は次の聖語を朗読する。

すべてのこと試みて良きものを守り、すべて悪のたぐいに遠ざかれ テサロニケ前書五章二一、二二節
会衆 主に感謝し奉る

司式者 われ常に主を祝いまつらん

会衆 われ常に主を祝いまつらん

司式者 主をたとうる言葉はわが口に絶えじ

会衆 主を祝いまつらん

司式者 父と子と聖霊に栄光あれ

会衆 われ常に主を祝いまつらん

司式者 主はわが牧者なり、我は乏しきことなからん

会衆 主は我をみどりの野に伏さしめたもう

司式者 主よ、我らの祈りをききたまえ

会衆 我らの声を主の御前に至らせたまえ

司式者 我ら祈るべし

特 禱

ここで当日の特禱を用いる。つづいて次の祈り、伝道のためその他の代禱を用いてもよい。

いと恵みふかき我らの主・われらの神イエスよ、主はわれら罪に死に義に生きんがため、昼のころ、十字架のうえにて大いなる苦しみを受けたまえり。願わくは主の十字架を記憶せしめ、この世にてきよき生涯をおくり、後の世にて主の栄光にあずかることを得させたまえ。主は父と聖霊とともに一体の神にましまして世々限りなく統べ治めたもうなり。アーメン

次に左のように言う。

司式者 主よ、我らの祈りをききたまえ

会衆 我らの声を主の御前に至らせたまえ

司式者 我ら主を祝いまつらん

会衆 主に感謝し奉る

司式者 願わくは主イエス＝キリストの恵み、神のいつくしみ、聖霊のまじわり、我らとともに限りなくあらんことを。アーメン